

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0991500067		
法人名	特定非営利活動法人いかんべ		
事業所名	グループホーム富士見屋		
所在地	栃木県 那須烏山市 下川井1439番地		
自己評価作成日	平成29年 2月 23日	評価結果市町村受理日	平成29年4月5日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/09/index.php">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/09/index.php</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人アスク		
所在地	栃木県那須塩原市松浦町118-189		
訪問調査日	平成29年3月9日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様が自由に外に出られる施設を目指し、玄関や居室の鍵は一般家庭と変わらないものになっている。日中は鍵もかけておらず、利用者様の行きたいと思った時に自由に外に出られるようにしている。職員は、利用者様が外に出たことが解るように見守りをしており、付き添いが必要な利用者様には、いつでも付き添える体制を作っている。また、地域の方達からの協力体制も厚く、外出時に地域の方たちの自宅を休憩所に使わせていただいたり、万が一利用者様が一人で歩いているような状況があった場合にも、富士見屋へ連絡をしていただける体制が出来ている。地域の協力を得ながら、利用者様の生活を支援出来ている。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は外観だけでなく内装も古民家風の造りとなっている。居間は白壁とこげ茶色の板壁、居室の扉は焦げ茶色の格子造りで大きな窓もなく薄暗い印象を受けるが、中央部天井が高く圧迫感はなく、利用者からは「明るいより落ち着く」と受け止められている。職員は、事業所理念を頭脳において利用者丁寧に接し、一人ひとりに心配りをしながら、くつろいだ生活をしてもらえるよう意欲的に支援に取り組んでいる。開設当初から地域住民との関係作りに取り組み、現在事業所及び地域の各種行事に相互に行き来して、日常的にも利用者が散歩途中に住民宅にお茶飲みに寄ったり、離脱した利用者の発見保護に住民が協力してくれるなど良好な関係を保っている。また、開設時から「利用者を第一に考える」という事業所の方針に沿って、看取りを行う体制をとって、職員間で話し合いを重ねて利用者や家族の不安を解消し、医療機関と密接に連携して手厚いケアを心掛けている。今後、利用者への支援がどのように展開されていくのか、また、事業所が目指している「地域住民の居場所・心の拠り所」がどのような形になっていくのか、期待を込めて今後の推移を見守っていきたい。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	管理者が常に職員と相談しあえる環境を作り、理念に沿って入居者様との関わり方を考えられる体制をつくっている	「個性を大切にします・家庭の事情を受け入れます・家のようにくつろげる環境をつくれます」という事業所理念を掲げていて、管理者は、理念に沿った実践ができているかどうか機会ある毎に職員に問いかけるようにしている。職員も、日常の申し送りやユニット会議の際に支援状況を振り返り確認し合うようにしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事に、毎回参加している。また、地域の方達にも気軽に遊びにきていただける関係を作れるように、イベントに参加していただけるよう声をかけている。少しずつだが、関係が築けている	地域住民は事業所開設に理解を示し、事業所も良好な関係作りに努めていて、現在は、どんど焼き・花見・御神輿練り歩き等の地域行事に利用者が参加して住民から歓待を受けている。事業所のイベントに住民の参加を呼びかけたり、利用者の散歩の際に近所の家でお茶をいただいたり、畑の野菜などを持ってきてくれる人もいて、日常的に地域との交流が行われている。「富士見屋新聞」(年6回)という広報紙を作成し、地域の回覧版に入れてもらっている。	地域住民との良好な関係を維持・継続するとともに、事業所が「地域住民の居場所・心の拠り所」となるよう、今後も積極的に地域との交流を行っていくことを期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症と家族の会の活動に参加し、認知症の理解を深めている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、関わり方の難しい入居者様に対して、どんな取り組みをしているか報告・相談をし、協力を得られている。地域からの相談も会議で話し合っている	自治会長・地区代表者・民生委員・地域包括支援センター職員または市担当職員・市社協職員が参加して、年6回運営推進会議を開催している。地域からの参加者は事業所の運営内容や行事等について積極的に意見を述べ、地域における課題の相談等も話題に出て、活発な意見交換が行われている。	運営推進会議に利用者と家族が参加したことがあるが、色々支障があったとのことで1回だけとなっている。利用者と家族が会議に参加することが望ましいので、今後実現に向けて検討していくことが望まれる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	困難事例等は、市の担当者と相談しながら取り組んでおり、協力しあいながら関わりが持っている	市担当職員とは日常的に連絡や利用者の情報提供等を行っている。入所前から市担当職員との関わりが深い利用者が何名かいるので、利用者の家庭状況・生活状況等について詳しい情報を聞くこともある。また、市から対応の難しい人の利用を要請された場合、「まずはやってみる」という事業所の方針のもと受け入れて、市と協力して支援していくことが多い。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的に身体拘束についての話し合いは設けており、身体拘束のないケアに取り組んでいる。玄関の鍵も一般住宅と変わらないものであり、入居者様は自由に外に出ることが出来る体制をつくっている	身体拘束のないケアの実践について、職員への定期的な情報提供や話し合いを行っている。対応の難しい利用者に対して不適切な声かけや対応が出てしまった場合は、管理者が職員に指摘・指導するとともに、職員間でも適切なケアについて話し合い、身体拘束に当たるケアのないように努めている。居室の掃きだし窓や玄関の鍵も通常のものであり、夜間以外は無施錠としている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待について、定期的に話し合いをもうけたり、職員のストレス等がたまらないように、業務の見直し等は常に行っている		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業の説明会に参加したり、成年後見制度を利用している入居者様がいるため、管理者は理解をしているが職員全員が理解出来ている状態にはなっていない		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居者様やご家族の状況にあわせ、時間をかけて契約を行っている。また、随時相談や再度説明が必要な方には説明を行い理解、納得に努めている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者様の要望は、常に確認している。ご家族の面会時は、職員より話しかけ意見の言いやすい環境をつくっている。出た意見は運営推進会議で話し合っている	職員は利用者一人ひとりの要望や意見等を聞き取ったり引き出すようにしている。外出希望があった場合は、配車や職員配置状況を見て応じるようにして、外出や買い物・ドライブなどに出かけることも多い。家族には最低でも毎月1回は面会に来るよう呼びかけ、面会時に家族からの要望等を聞き取りその内容について会議で話し合い、その後の運営・支援に反映するようにしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者や管理者は、職員の意見を常に聞けるように、落ち着いた時間等使い話し合いを、多く持っている。	ユニット会議(毎月)と合同ユニット会議(年2回)を行っている。欠席者からも事前に意見を提出してもらった上で話し合いをしている。利用者のケアの変更や運営内容等について、職員から多くの意見が出され検討のうえ改善に取り組んでいる。職員からの休憩時間確保の要望を受けて、現在時間帯や時間の長さ等について試行中であり、今後実現に向けて検討していくことになっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年度切り替え時に、職員ひとり一人と管理者で話し合いの時間を設けている。一年の反省と今年度の目標等に必要な職場環境・条件の設備等を作っている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修や資格が取りやすいように、勤務表に反映させている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	認知症と家族の会の活動を通し、他事業所との交流の機会を設けている。また、同業者との合同勉強会等も行っており交流の機会を設けている		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前から、ご家族・ご本人とは話し合いの時間を多く取っており、不安や要望を事前に確認し、どのような体制で関わらせていただくか説明させていただいている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族が困っていること、不安なこと、要望等は時間をかけて、話し合いをしている。安心していただくまでは、何度でも話し合いの機会を作っている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所申し込みの段階で、どのような状況で生活されているか、時間をかけて話を聞いている。状況を確認させていただいた上で、他のサービスが必要な場合は紹介させていただいている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様の得意な事などを生活に取り入れるようにしており、入居者様から職員が教えていただく時間を大切にしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は入居者様との生活の中で、家族の話題を出すようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入所前に行っていた馴染みの店や友人宅、習い事等、ご家族・ご本人に伺い定期的に会いに行ける体制をとっている	馴染みの美容室・理髪店・商店・習い事教室に通う利用者がいて、希望に応じて随時職員が送迎している。家族の意向を確認の上、以前住んでいた家を訪ねる利用者もいるが、「自分の家は今住んでいるところ」と利用者は泊まらずに日帰りでの外出となっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	毎日、集団レクリエーションの時間を設けており、利用者同士が関わりを持てる場を作っている。また、昼食は全員が集まるようにしており、孤立しないような体制をとっている		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了した後も、富士見屋で行うイベントにお誘いしたりする事で会う機会をつくり、必要に応じて相談や支援をしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	どんな事でも、ご本人の意見を確認しながら物事を決めている。困難な方には、いくつかの関わりを試し、ご本人の反応が良かった物を取り入れている	職員は「これはどうしますか?」「・・・したいんですか?」と丁寧な言葉かけで、利用者の意向や意見を聞き取るようにして、可能な限り意向等に沿った対応をするよう努めている。聞き取りの難しい利用者には、表情や態度等をもとに色々な関わりをしてみ、反応の良いものを意向として受け止めるようにしている。「宝ものプロジェクト」と名付けて、一部の利用者から青春時代の仕事や子育て、家族との思い出等を聞いて口述記録として綴る取組を始めていて、今後他の利用者にも広げていく予定である。	「宝ものプロジェクト」は、利用者や家族からは好評であることから、今後も継続して取り組んでいっていただきたい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前に、自宅でどんな生活をされていたか、時間をかけて話を聞き、家での生活が継続出来るような体制づくりをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者様の事で、少しでも気になる事がある場合は、常に話題に出し、関わり方を見直す等行っている。職員全体に伝わっていない事もあり、課題である		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要の関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人が生活する上で関わりがある方の意見は面会時などに時間を割いていただき、話を伺っている。いろいろな方の意見をもとにして、介護計画を作成している	計画作成担当者は、利用者や家族の意向・要望を聞き取り、ユニット会議やリスクマネジメント会議での意見、モニタリング結果等をもとに介護計画を作成している。利用者の重度化が進んでいるため、作成担当者は現在のモニタリング書式の見直しの必要性を感じていて検討中である。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録時間を短縮するため、記録に関しては簡素化している。職員間での情報の共有が難しくなってきたため、記録用紙の見直しを検討している		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族のニーズがあった場合は、可能な限り取り入れられるよう、体制の見直し等柔軟な対応をしている。その際、全利用者・職員の意見を聞きながら進めている		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の方達との協力体制が出来ており、利用者様の生活を豊かにしている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診の希望は、本人・家族と話し合った上で決めている。希望に沿った支援が出来るように、日頃から近隣の医療機関とは連携が図れるような関係づくりをしている	定期受診の付き添いは家族が行っているが、重度化で介助困難になっていることや、待ち時間が負担になることから半数の利用者が往診してもらっている。緊急時や家族の都合がつかない時、また独居の利用者は職員が通院時の対応をしている。受診の際、バイタルの記録や日常の様子を手紙か口頭で医療機関に伝え、受診後結果はスタッフ連絡帳に記入し職員間で情報を共有している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職場内に看護師の配置はしていない。そのため、協力病院との連携をしっかりとおり、利用者様の状態の変化があった場合は、医師や訪問看護師に来ていただける体制を作っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	近隣の病院関係者とは、日頃から何でも相談出来る関係を築いている。利用者様が入院した際も状態の確認等を行い、相談しながら早期退院に向けて話し合いをしている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に富士見屋の終末期のサポート体制については、話をしている。契約時に考えがまとまらない様子が見られた場合は、利用者様の体調が悪くなった時に、再度話し合いを持ち本人・ご家族が望まれる終末期のお手伝いをさせていただいている	開設時より事業所の方針に沿って看取りを行う体制をとっている。話し合いを重ね、利用者や家族の不安を解消し、医療機関と密接に連携し、手厚いケアを心掛けている。看取りに当たっては、職員配置や緊急対応等に配慮して、職員に負担をかけすぎない体制作りにも努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全職員がAED講習をうけており、緊急時の対応が出来るようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的な訓練は行っているが、新人職員で訓練に参加出来ないものが数名いるため、今後訓練を受けるようにする。運営推進会議を通し、地域との協力体制は呼びかけている	年2回の避難訓練のうち1回は消防署員立ち合いで行っており、地区の防災訓練にも参加している。これまでは火災対応の訓練のみだったが、市のハザードマップで事業所の両側が土砂崩れ危険箇所になっていることから、運営推進会議で事業所も含め地域としての対策を話し合いたいと考えている。	災害時に備え、避難等の障害とならないよう廊下に置いてある荷物を整理するとともに、利用者の必需品等を考えて備蓄対策を進めていただきたい。また、利用者の連絡先や持病、薬等の情報をまとめて、非常時にすぐ持ち出せるよう備えることが望まれる。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を考えながら、声かけの言葉を変えているが、課題も多い現状である	職員は利用者を名字で呼んでいるが、利用者の希望で入所前に呼ばれていたように名前でも呼ぶこともある。職員の話し方はフレンドリーに、だが馴れ馴れしくならないよう気をつけている。入浴の異性介助を嫌う女性の利用者には女性職員に代わってもらったり、距離をおいて見守る等配慮している。事業所の広報紙には家族の了承をもらって利用者の写真を掲載している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員の意見だけで物事を決めないようにしている。決定権は利用者様に持ってもらっている。難しい議題に関しては、管理者から話をして理解していただくようにしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の都合で、業務等は作っておらず、その日の利用者様の希望を大切にしている。柔軟な対応が出来るシステムを作っている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自宅で使っていた化粧品などは、そのまま持ってきていただき、身だしなみやおしゃれを継続していただいている。また、職員と化粧品の買い物等も行っている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様の希望を聞きながら、メニューを考えている。食事作りも利用者と職員が一緒におこなっている	職員は毎日午後利用者も同行して、三食分の食材の買い出しに行っている。献立は利用者の希望を取り入れて職員が立てるが、昼食・夕食の準備、調理、食後の片付けは利用者と一緒にしている。職員も利用者と一緒にテーブルを囲み、同じものを食べながら、さりげなく介助している。起床後に温かい牛乳、おやつに季節の果物を出すようにしている。利用者の外食の希望には、できるだけ応じるよう取り組んでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分チェック表があり、摂取量を確認しながら支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの時間を設けているが、拒否の強い方に対して、不十分な時もある。関わり方について、話し合いをしている		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用しており、排泄状況を確認しながら、声かけ等行いトイレでの排泄を行っているが、タイミングが合わない時もあり課題もある	排泄チェック表は利用者や外部の目につかない所に置いてある。トイレ誘導は利用者の様子、前回からの時間、摂取水分を考慮して行っている。夜間はおむつはせずパッドを厚いものにしていて、職員は自らトイレに起きる利用者は見守りをし、その他の利用者には声をかけて誘導している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘対策に、食事・水分・運動等個々に合わせた取り組みをしているが、改善しない方もおり医師へも相談も出来る体制をつくっている		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日は決めておらず、利用者様の体調や気分等確認しながら入浴していただいている	週に2、3回は利用者が入浴できるよう支援している。浴槽には利用者の必要に応じて移動式の手すりを設置することができ、手すり職員の手を借りて安心して入浴できるようにしている。入浴拒否の利用者には外出前に「シャワーを浴びてから行きましょう」等、納得してもらえる言葉かけを工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入所以前の生活習慣を確認し、一日の生活習慣は変えずに過ごしていただいている。昼夜逆転になりやすい利用者様に関しては、生活習慣を見直し、ご本人と相談しながら改善している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の目的や副作用についての説明している。説明が理解出来なかったり、忘れてしまった場合は何度でも説明をするようにしている。状態が変わったときは医師に相談し、その都度薬内容の見直しをしている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者様、一人ひとりに役割を持っていただき、張り合いや喜びを感じていただきながら、生活していただいている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出の機会は多く持っている。普段いけないような場所に行きたいと希望があった場合は、家族に相談して実行できるようにしている	四季の花見、蛍狩り、花火見物、いちご狩り等、外出の行事は多い。利用者は自由に外に出ることができ、職員に見守られ事業所周りを散歩をしたり、地域住民宅を訪ねたりしている。希望する外食や馴染みの床屋へ行く支援や、希望がない時でも利用者の様子から職員が判断してドライブに誘って気分転換してもらったりと、積極的に外出する機会をつくっている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人の希望がある場合は、ご自分で財布をもっていただき、お金の管理もしていただいている。ご家族への説明も管理者よりさせていただきます、理解を得ている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や手紙のやりとりは、自由にいただいている。入所前にトラブルがあった方に関しては、トラブルにならない対策をたてている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を感じていただけるように、共有スペースの飾りは利用者様と一緒に作っている。また、季節のお花なども利用者様に活かしていただき、飾っている。	居間は白い壁とこげ茶色の板壁、居室は焦げ茶色の格子扉で大きな窓もなく薄暗い印象を受けるが、中央部天井が高くして圧迫感はなく、利用者は「明るいより落ち着く」と受け取っている。レクリエーションで季節感のあるものを作ったり、雛飾り等季節を感じられるものや、利用者と一緒に活かした季節の花や、散歩で摘んできた花を飾ったりと季節感を大切にしたい設えを心掛けている。	災害時の安全確保やスペースの有効利用のためにも、玄関、廊下の整理整頓を心掛けるとともに、毎日短時間でも掃除の時間を作り、安全で清潔感ある共有スペース作りを目指していただきたい。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間に仕切りがないため、独りになれたり、気の合った利用者同士で過ごしていても、間に入られたりと、干渉しあってしまい課題がある		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時に、本人やご家族に使い慣れたものを持ってきていただけるよう、声をかけさせてもらっている。入所後も自宅から持ってきてほしいものがあつた場合は、ご家族に協力していただき、取りに行ったり、持ってきていただいている	居室の入口には職員手彫りの表札が下がっている。部屋にはテレビやタンスが置かれていたり、家族の写真が貼ってあつたり、掃除好きの利用者の居室には箒があつたりとその人らしい住まいになっている。入居前、自分で洗濯をしていた利用者は備え付けの洗濯機を使用して洗濯し、自室前のベランダにある物干し竿に干している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全で自立した生活が遅れるように、利用者様一人ひとりにあわせた環境作りをしている。利用者様の状態の変化があつた時も、環境等見直している		